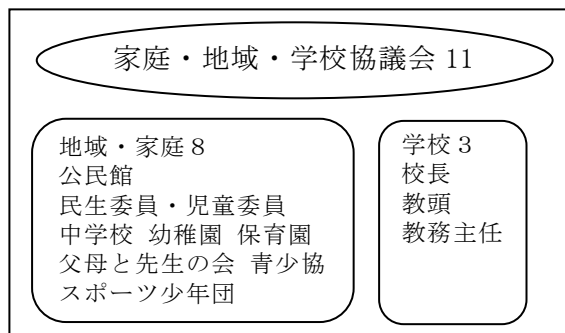


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ①家庭・地域・学校協議会委員決定 4月
- ②教育方針の説明 6月
- ③体育祭・文化祭参観 9月
- ④学校評価と具体的な方策等 2月

地域コーディネーター（1名）
鯖江公民館長

(3) 協議会における成果と課題

学年の系統性もふまえて、年間計画を立て、地域人材を活用したふるさと教育を推進することができた。一方で教職員の業務改善が課題に挙げられる。今年度の実践をもとに計画を見直し、児童がさらに主体的に活動できるようなふるさと教育を目指したい。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

児童が自らの地域での体験学習（ふるさと学習）を通して、ふるさと鯖江に誇りや愛着をもち、主体的に行動する児童を育てていく。

(2) 活動の実際

② ふるさとを掘り下げる（6年生）

◇惜陰小学校の歴史を学ぼう

（元惜陰小学校長の植田命寧氏を招いて）

校舎に隣接している進徳館の中に、本校の歴史に関わる資料や昔の教科書などが保管しており、当時の校長の植田氏を招いて話を聞いた。



◇殿様学級で禅宗と室町文化を体験しよう

（校区の萬慶寺にて住職からの講話と茶道の体験）

住職と市文化課担当者の説明で、鯖江藩第7代藩主である間部詮勝公の生涯について学び、鯖江藩の立場から、日本を明治の夜明けに導いた150年前「幕末」について学習した。また、当時の文化に触れる茶道体験を行った。



◇未来の鯖江について提言しよう

(市長や進徳小学校の児童を招いて)

ふるさと鯖江について調べたことをもとに、「百年後も住みたい鯖江」と題して発表した。

- ・ 惜陰地区の歴史探訪王山古墳・間部詮勝について
- ・ 進徳館について
- ・ 未来に向かう鯖江 パネルディスカッション

当日は、隣接校の進徳小学校6年生と鯖江市長を本校に招き、本校児童の提言についての質問や意見、感想を述べていただいた。

- ・ めがねモチーフの観光地や施設を
- ・ グリーンセンター設備の整備でごみのない街に
- ・ 高年大学と小学生とのスポーツや文化の交流を
- ・ 自転車専用道路やロードヒーティング設備の整備を
- ・ 鯖江の特産品を利用したレストランを鯖江駅に
- ・ 各フロアに鯖江の名所を設置した“サバビル”を



(2) 地域コーディネーターの活動概要

歴史・文化学習について、他のボランティアの方々との連絡調整や事前打ち合わせなどを担当した。また鯖江市のさまざまなイベントを学校で紹介することで、地域と学校とのつながりが強くなった。

(3) 特に工夫した事項

自分たちで住みよい街に変えていきたいという気持ちを育むために、自分たちの街の良いところを自慢する形式を取った。下級生や保護者に協力を依頼し、自分の調べたことをアピールすることで、地域の良さをより実感することができた。特に6年生は、進徳小学校児童との交流や、鯖江市長から自分たちの提言に対する意見をいただくことで、ふるさとを大切に思う気持ちが今まで以上に強くなった。

3 成果と課題

年間計画に基づき、地域人材を活用したふるさと教育を推進することができた。アンケートの結果では、児童の90%が、「地域のことを調べたり、地域の人に尋ねたりして調べ活動ができた。」で、82%の児童が「地域行事に参加している。」と答えている。自分たちで調べ体験したことにより、自分たちで地域を盛り上げる意識が高まったことが伺える。

今年度の新しい試みは進徳小学校6年生との交流で、ふるさとを大切に思う気持ちを共有することができた。ただスケジュールの調整、交通費の捻出など課題は残る。しかし、今後も児童が主体的に活動できるような計画を立て、地域に根ざしたふるさと教育の充実を図りたい。そして将来は地元に残って、積極的に鯖江を活性化していく人材を育てていきたい。